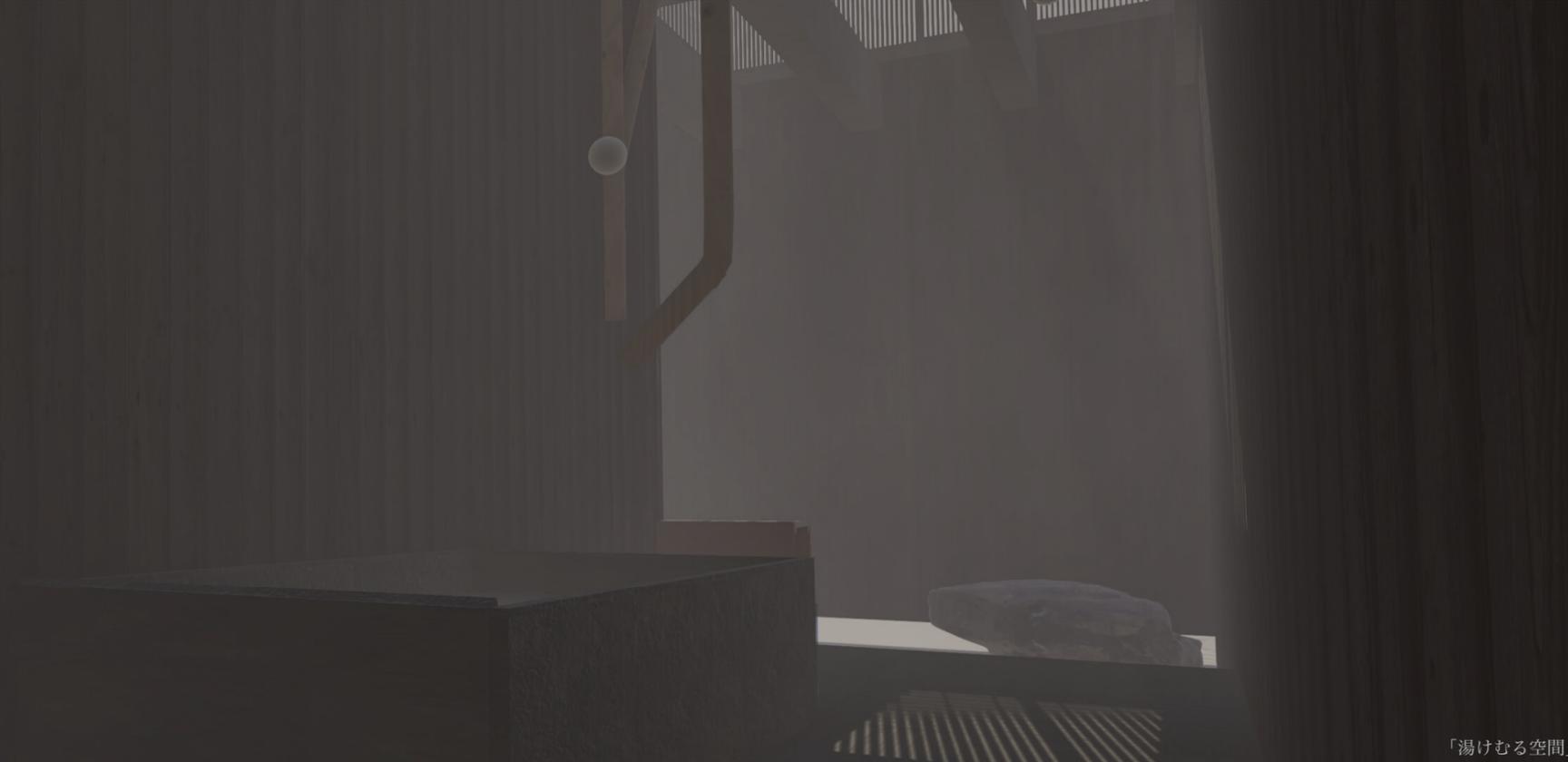




長野県 奈良井宿

敷地は長野県の宿場町である奈良井宿とするが、どの敷地でも利用できる想定で考えている。



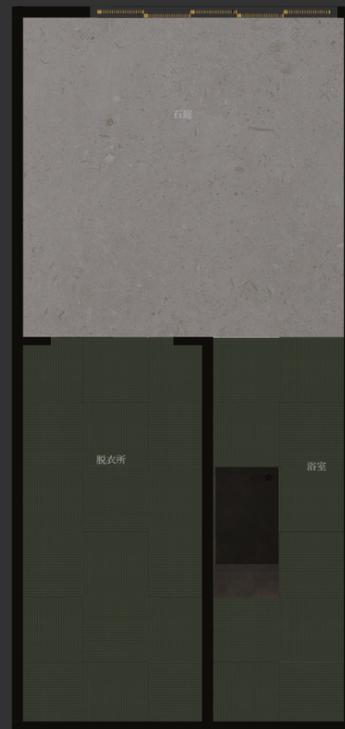
「湯けむる空間」

風呂の湯煙によって浴室が霧に包まれているような空間になる。暗闇に射す手法もあいまって幻想的な空間となる。

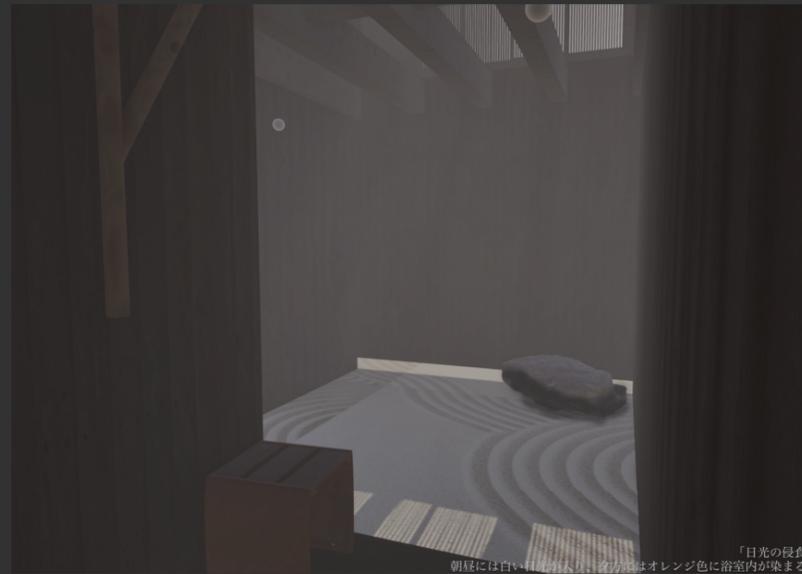
半露天・半屋内型の浴室。スリットから雨や雪、そして日光が入り込む。屋内に自然が侵食してくる。人の感覚は自然に外へと向けられる。



断面図 1:50



平面図 1:50



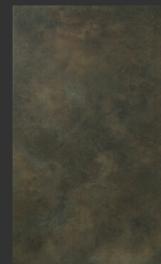
「日光の侵食」
朝昼には白い日光が入り込むが夜はオレンジ色に浴室内が染まる。



「自然の侵食」
冬には雪が入り込む。



(1)給水設備は開炉裏の自在鉤をモチーフとしたデザイン。水の落差が大きいため、水が落ちてくる音を楽しむ(湯音がとろめく)。

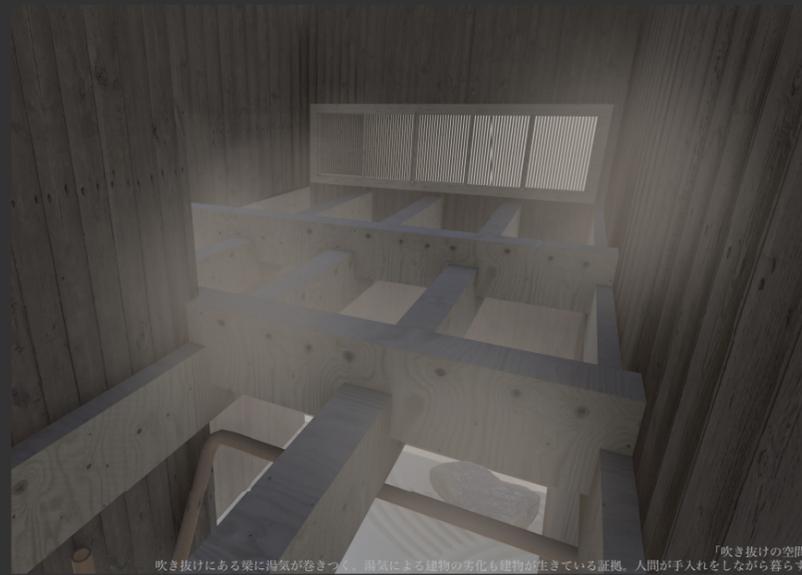


(2)浴槽の素材はグリーントラバーチンを利用している。コールテン銅に緑を混ぜたような見た目だが、水に強く、肌馴染みも良い。

床は琉球畳を用いている。肌触りがよく、1日の疲れを足からも落とすことが可能である。



琉球畳のイメージ



「吹き抜けの空間」
吹き抜けにある梁に陽気が巻きつく。湯気による建物の劣化も建物が生きている証拠。人間が手入れをしながら暮らす。



「夜景」
陽が沈むと、温かなランプと月光が浴室内を包み込む。